

2022年度の授業

グループワークでは、毎回グループを変更しました。これは、自分以外の様々な受講者の主張を理解するための仕組みでもありました。

受講者の感想

- ◆ 今まで、ここまで深く差別を考えたことがなく、差別は自分とは関係ないと思っていたことに改めて気づいた。授業の中で扱った書籍は、日常生活のなかに潜んでいる差別を多く扱っており、自分は差別とは関係ないというスタンス改めようと思った。身近にある差別に自ら関心を持ち、向き合う必要があることがわかった。また、グループワークを通して、同じ書籍を読んでもそれぞれ考え方や捉え方が違うことに気づき、多くの人の意見や考えを聞くことで視野を広げることができるとおもった。（農学部1年生）
 - ◆ 差別をする人というものに特別な感じがあって、自分は差別などしないから大丈夫だと思っていた。しかし、この授業を受けて、差別は日常生活のなかで必然的に起きてしまうものだということを学んだ。他者を理解しようとする中で、自分が持っているカテゴリーで人を判断してしまっていたり、誤った情報から得た知識でマイノリティの人びとを理解したような気持ちになっていたりと、自分で気づかないうちに他者に対して思い込みや決めつけをしていることがあったと知った。この授業を受けて、こうした「差別する可能性」に気づくことができた。（医学部1年生）
 - ◆ この講義を通じて、差別とは何なのかについてや、自分と差別という行為の関係性について学ぶことができた。また、本を読んだりグループ活動を経験したりして、差別とは身近に存在するものであることを実感した。理解していないだけで、まだ自分の中には決めつけや思い込みがあると思うので、今後生きていく中で少しずつ決めつけや思い込みから距離をとる態度を身につけていきたい。（教育学部1年生）
-